

令和2年7月31日(金)

生徒の皆さん、おはようございます。校長の野澤です。これまで経験したことのない第1学期が、今日、終業の日を迎えました。ここまで本校生徒の皆さんが、健康を保ち、感染拡大の防止に協力して下さったことに、先ずは感謝いたします。そして、皆さんの健康を支えて下さった保護者の皆様、消毒作業や三密回避に力を尽くしていただいた先生方に、心からのお礼を申し上げたいと思います。

さて、本校は明日から1か月の夏季休業に入りますが、これは千葉県立の高等学校に等しく通知された、県教育委員会の方針です。2か月も臨時休校をしていたのですから、夏休みも無くして授業を行うのが当然である、という意見を述べる方も、中にはいらっしゃいます。現に近隣の小中学生は、わずか1、2週間の夏休みしか与えられませんでした。なぜ、高校生には長い夏休みが許されるのでしょうか。

これには、法律や行政上の問題、社会との関わりなど、たくさんの事情や理由があると思います。一時期、「9月入学」についての議論が注目を集めました。それほど単純に切り替えられるものではないと、棚上げされました。なぜ、高校生には小中学生の倍以上も夏休みが与えられるのか、同じように単純な理由ではないと思いますが、高校生にはより成熟した「考える力」が備わっているからだ、私は考えています。

極端な表現ですが、授業を受けることだけが「勉強」でしょうか。「勉強」する方法は授業だけですか。手元にある教科書を自分で読み進める、読み解くことでは、「勉強」は成立しないでしょうか。そんなことはありません。特に1、2年生には、スタディサプリという自主学習に活用できるツールを用意しています。学校の授業時間が減って取り扱えなくなった分を、どのようにすれば回復できるのか、それを考えて答を出せるから、高校生には長い夏休みが与えられるのではないのでしょうか。手を引いてもらったり、与えられたりしなければ「勉強」できない小中学生とは違うのだ、という自覚を、どうかお持ちいただきたいと思います。

新型コロナウイルスの感染は、確実に広がりを見せているようです。どう振る舞えばよいか、皆さんの「考える力」で正しい答えを導き、健康な姿で2学期にお会いしましょう。終わります。